

ウルフ・カブ

ボーイスカウト年代以下の子ども達が活動できるようにベーデンパウエル卿が考えた部門で、日本のカブスカウトのことです。

ベーデンパウエル卿はスカウト運動が始まった後、ボーイスカウト年代以下の子ども達ためのプログラムを考えました。そして、英国の文豪ラジャード・キップリングの「ジャングルブック」を基盤として1916年に「ウルフカブス・ハンドブック (WolfCubs Handbook)」を執筆し、それが活動の基本となりました。ウルフカブは狼の子という意味です。

日本では、1924（大正13）年6月に古田誠一郎氏によって神戸市須磨に最初のウルフ・カブ隊が誕生しました。

そして、ジャングルブックの中に出てくるウルフ（狼）は日本には生存しないので、日本に向いたいろいろな物語が試案されました。太平洋戦争後の昭和26年、日本のカビンダは、ウルフカブス・ハンドブックに倣って日本昔話の「金太郎」を中心とした「足柄山物語」を創作しました。これをカブスカウト活動の中核となる物語としたのです。